ら豐富な，しかし，恐らく多過ぎるとは言へない熱と光とを受けてゐる．即ち金星は雲に掩はれて居り，直接の觀測では此の事實を是認する事は出來ないし之迄度々失敗に終つたとは言へ，スペクトル寫眞の方法で，大氣中の水蒸氣や酸素を見つけ出さうと試みられてゐる．極く最近，キルソン山天文臺のアダムス氏とダンナム氏は金星のスペクトルの赤外部に極く著しい吸收線を認めた．之らの帶の位置及び帶構造に關する斯樣な理論的な智識は，所謂“帶は炭酸ガスに基づくとする公明な憶說”を與へるのである．此の鑑定の正確さを想定して，金星に生物の存在を肯定するか，或は，否定するかの議論が出來るだらうか？ 地球上では動物や植物が充滿して居るが，地球の大氣中に炭酸ガスは極く小部分に過ぎないし，又，大抵の火山の爆發に依つて殆んど現はれない．地球大氣に曾てあつたと思はれる過剩な炭酸ガスが，石灰石や大理石及び他の地殼中の炭酸鹽に含まれてゐた以前には，地球上に生物の可能性があつただらうか？ 之らの最新の極めて興味深い觀測は金星上の生物の存在に有利な理論として用ひられる事は極めて疑はしい．吾人が未だ解答を知らない多數の問題中の一つと此の疑問を見做すべきだと筆者は考へる．(A. S. P. L. 48.,—佐登兒譯)

天 界 問 答

問：下の三ケ條を御敎へ下さい．(T)

(1) ドイツの小遊星年鑑のドイツ價と發行所．

(2) 米國變星協會發行の星圖の米價．

(3) 彗星年鑑の如きものの出版の有無．

答：(1) ドイツの小遊星年鑑とは，ベルリン市ダーレム區の Coppernicus-Institut（元は Astronomisches Rechen-Institut と言つたもの）から毎年出版される“Kleine Planeten, Elemente und Oppositions-Ephemeriden”でせうが之れはドイツ價は2マルクです．しかし最近は全く輸入が不可能です．

(2) 米國變星協會 (American Association of Variable Star Observers) の事實上の中心はハーバード大學天文臺にありまして，靑寫眞の星圖を希望者に頒布してゐますが，價は一寸不明です．大した高價ではありませぬ．

(3) 彗星年鑑などと稱へて毎年定期に發行される印刷物はありません．但しドイツの A. G. 協會は其の機關誌 Vierteljahrsschrift に一ケ年分づつの彗星記事を出しますし，又，英國の R. A. S. 學會でも機關誌 Monthly Notices の毎年の二月號に彗星記事が載ります．しかし此等よりも，寧ろ英國 B. A. A. 協會の年鑑 Handbook に毎年出現豫定の彗星の豫報が載りますのが，觀測者には使利です．（東亞生）